

東日本大震災への札幌協の対応について

平成23年3月11日に発生した東日本大震災に見舞われ、亡くなられた方々にご冥福をお祈りいたしますとともに甚大な被害を受けられ被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。
東日本大震災への札幌協の対応について、報告します。

義援金の札幌市への寄付

平成23年6月3日(金)、東日本大震災の被災者支援活動に助成をしている札幌市の「さぼーとほっと基金」に、札幌協各支部(6支部200社)、組合員和田設備建設工業(株)、賛助会員(株)イチキ「イチキ会」及び組合事務局職員一同からの義援金、総額2,016,520円の寄付を行いました。



▲平成23年6月7日 上田市長より感謝状を受領

写真左より 札幌協 副理事長 佐藤 安幸
 // 副理事長 山中 純一郎
 札幌市長 上田 文雄 氏
 札幌協 理事長 花松 真一
 // 副理事長 若杉 明信

札幌協に感謝状 市が震災義援金寄付で

上田市長は7日、「さぼーとほっと基金」(市民まちづくり活動促進基金)の「被災者を支援する市民まちづくり活動」に200万円を寄付した札幌市管工事業協同組合へ感謝状を贈った。同協組は、東日本震災で市内に避難してきた被災者を支援しようと、加盟企業200社から義援金200万円を集め、5月31日に寄付した。

市役所本庁舎を訪れた花松真一理事長は「震災後、3次にわたる応急復旧隊を派遣したが、資金的にもサポートできればと思い義援金を集めた。今後も継続して取り組みたい」と述べた上で、札幌での激甚災害発生に備え「日常的に心構えを整えている」と即応体制を整えていることを伝えた。

上田市長は「震災の支援活動を頑張っている市民団体やNPO法人をサポートするお金として使わせていただく」と感謝し、「市内の水道管の耐震化でも今後お世話になる。よろしくお願した」と要請した。

さぼーとほっと基金は、市民や企業の寄付で町内会やボランティア団体、NPOなどが取り組むまちづくり活動を応援するもの。震災後は4件、約250万円が集まった。

上田市長から感謝状を受ける花松理事長(右)

▲平成23年6月8日付
北海道建設新聞

東日本大震災に伴う応急復旧隊の派遣

平成23年3月11日に発生した東日本大震災に見舞われ、亡くなられた方々にご冥福をお祈りいたしますとともに甚大な被害を受けられ被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

札幌協では、札幌市水道局と「災害時等における水道の応急活動に関する協定」を結び、災害等が発生した場合には「応急給水・復旧隊」として活動を行います。

今回の東日本大震災に際して、札幌市水道局からの要請を受け被災地である宮城県石巻市に平成23年3月25日～4月17日まで、応急復旧隊を3次にわたって派遣〔大富工業(株)、東亜工業(株)、丸功協栄工業(株)〕し、水道局職員とともに水道管の復旧活動を行いました。

ここに、派遣までの経緯と派遣状況について報告します。



▲石巻市被災状況

応急復旧隊派遣までの経緯（※文中の役職名等は当時の役職。敬称略）

3月11日(金) 14時46分、東日本大震災発生。

12日(土) 札幌市水道局（以下、水道局）調査隊（近藤給水課長他3名）、応急給水隊1班（職員2名、タンク車1台）が仙台市へ出発。

14日(月) 水道局の第一次応急給水隊2班（宮下配水担当部長他8名、タンク車2台）が仙台市へ出発。

社団法人日本水道協会北海道地方支部（以下、日水協）から、水道局に対して応急復旧活動の要請が行なわれる。

水道局との「災害時等における水道の応急活動の応援に関する協定書（以下、協定書）」に基づき、現地派遣の要請を受けたことから、幹線の復旧を想定して、緊急等維持復旧業務契約組合員24社に出動協力要請。

水道局との協定書に基づく災害時の応急出動体制名簿より、φ400mm以上の幹線復旧の登録業者である大富工業(株)に第一次隊としての派遣を要請。

17日(木) 復旧隊派遣の正式出動要請のため、水道局から小山水道事業管理者、相馬給水部長が来組。花松理事長、山中副理事長、佐藤副理事長と面談。

23日(水) 日水協から復旧班の出動要請があり、北海道地方支部として石巻市の北部地区を札幌市、小樽市、岩見沢・江別市（合同）、旭川市で対応することになった。

札幌市は、3/25に出発。復旧隊（1班）の編成は水道局5名、札幌協6名の11名。

24日(木) 水道局と打合せ。石巻市までの経路は、苫小牧東港からフェリーで秋田港へ行き、仙台市経由で石巻市に向かうこととなった。

応急復旧隊 派遣スケジュール

3 月							4 月																
25(金)	26(土)	27(日)	28(月)	29(火)	30(水)	31(木)	1(金)	2(土)	3(日)	4(月)	5(火)	6(水)	7(木)	8(金)	9(土)	10(日)	11(月)	12(火)	13(水)	14(木)	15(金)	16(土)	17(日)
第一次 大富工業(株) (3/25~4/3)																							
									第二次 東亜工業(株) (4/2~4/11)														
																		第三次 丸功協栄工業(株) (4/10~4/17)					

3月28日(月) 石巻大森地区の送水管φ200の漏水調査を地元業者と一緒に実施。

その後、石巻市字館下の送水管φ300及び配水管φ250の漏水箇所の掘削を完了。管材料を現場に搬入し、ブルーシート及びバリケードで現場を養生して作業を終了。

本日の夜から、新しい宿舎としてパレス松洲（石巻市から車で40分位）に移動。

部屋は和室で6人一部屋。フロが完備。食事は30日の夜まで出ないので、前日まで宿泊していた北部地区配水管管理事務所に戻って食べる。



▲3/28 石巻市字館下 送水管修理

3月29日(火) 昨日掘削した、石巻市字館下の送水管φ300及び配水管φ250の漏水箇所の修理及び埋め戻しで作業が終了。通水したが、別の箇所が漏水。



▲3/29 石巻市字館下 送水管修理

3月30日(水) 午前中は、作業車の給油や昨日の現場の後片付けなどを行ないながら本部の指示待ち。

北上系送水管DIPφ300の別の箇所（水管橋手前の皿界川右岸側）で新たな漏水が見つかったことから、漏水箇所の修理を実施。

本日の夜から宿舎（パレス松洲）でバイキング形式の食事。



▲3/30 石巻市北上町橋浦 送水管修理

3月31日(木) 午前中は、送水管・配水池の充水、濁水処理作業で新たな漏水が発見された場合にすぐ対応できるように事務所で待機。

午後から小樽市復旧班に合流し、石巻市字大森の送水管DIPφ200の漏水修理を共同で行ない作業終了。当該箇所は河川横断部であったため、ダクタイル鋳鉄管で地上配管により上越しして通水。



▲4/1 石巻市大森字田待井 配水管修理

4月1日(金) 午前中は、さいたま市で大森地区の送配水管を漏水調査しており、漏水が発見されれば修理を行なうため、事務所で小樽市復旧班、旭川市復旧班とともに待機。

午後から、石巻市大森字田待井の配水管VPφ75の漏水修理を実施。

4月2日(土) 午前中は、昨日修理した配水管VPφ75の漏水修理箇所の路面復旧。

午後からは、現場作業は無く第2次復旧隊との引継準備のため、工具等のチェック。

夕方に第2次復旧隊の東亜工業(株)が北部地区管理事務所に到着。引継を行なう。



▲4/2 石巻市大森字田待井 路面復旧

4月3日(日) 宿舎を出発。バスで山形市へ向かい、山形空港から札幌への帰路につく。

第二次応急復旧隊の派遣（4/2(土)～4/11(月)）



第二次応急復旧隊 東亜工業(株)

写真左から

伊 東 仁 司 さん (隊長)
 杉 本 春 男 さん
 阿 部 則 男 さん
 大 野 英 利 さん
 伊 東 圭 介 さん
 塩 田 秀 人 さん

3月31日(木) 16時30分から、水道局大会議室で第二次
 応急復旧隊の出発式。

4月2日(土) 8時に、新千歳空港から現地に向けて出
 発。山形空港からバスで、仙台市を經由し
 て石巻市に移動。

夕方に、石巻市の北部地区管理事務所に
 到着。第一次応急復旧隊との引継。

引継が終わり、遅いミーティングをする。
 明日からの活動を、ケガなく安全に行動
 する事を確認して就寝。

東日本大震災
被災地へ第2陣派遣
 札幌市管工事業協同組
 合(松良一理事長)は
 1日、東日本大震災の被災
 地へ第2陣となる応急
 復旧隊を派遣した。
 東亜工業(中野区、伊東
 知徳社長)の社員6人が
 市職員らとともにこの
 日のうちに宮城県石巻市
 に入り、きょう2日から
 水道管の復旧に当たる。
 市水道局の要請に応え
 第1陣として派遣された
 大野英利(東区、富樫誠
 社長)の社員6人と交代
 し、10日まで石巻市北部
 の浄水場から配水池まで
 の送水管を補修する。
 3月31日に水道局庁
 舎で出発式を行い、小山
 高史水道事業管理者が
 「被災地では死者・行方
 不明者が増え続け、終息
 が見えない状況が続いて
 いる。安全や健康に気を
 付けて、被災者への水の
 を届けてほ
 し」と激
 励。隊長を
 務める市都
 市局道路課
 認課の東野
 英利が「被災地に
 希望の光を
 届け、復興
 の礎となる
 よう頑張ら
 せよ」と決
 意表明し
 た。

▲北海道建設新聞(平成23年4月2日付)

4月3日(日) 札幌班は、北部地区管理事務所より修理依
 頼があり、石巻市大森字青ヶ崎土手外へ移
 動。VPφ75を修理。

なお、現地へ向かう途中の橋が一部損壊し
 て通行不能であったため迂回を余儀なくさ
 れ、20分の行程が60分となった。



▲4/3 石巻市大森字青ヶ崎土手外
 配水管修理

4月4日(月) 本日も引続き、大森字青ヶ崎土手外の修理
 を行ない、バルブφ75及びスルースφ40の取
 替え完了。

その後、同一ルートの漏水調査を行なった。
 なお、塩ビ管用サドル分水栓の穿孔機(取
 出し口径φ40mm)を岩見沢の班から借用。



▲4/4 石巻市大森字青ヶ崎土手外
 配水管修理

4月5日(火) 昨日修理した箇所の下流側に漏水が確認されていることから、引き続きVPφ75の修理を行なう。
復旧後、通水するが新たに漏水が確認され、後日復旧することとなる。

4月6日(水) 本日も、昨日修理した箇所の下流側でVPφ40の漏水が確認されたことから、引き続き同地区の修理を行ない、修理完了。

通水できた家族の方からすごく感謝され、仕事のやりがいを感じた。

4月7日(木) 本日は一日中、待機であった。水道が出ていない場所があり、修理して欲しい箇所はあるものの、瓦礫等の処理が追いついておらず、復旧隊が入れない状態である。

夜、23時32分に震度6の地震があり飛び起きる。
停電のため用意していたヘッドランプを付け、社員全員の無事を確認し非常階段を下りロビーに行く。付近の住民が30名程集まってくる。
30分位で余震がおさまり住民も帰宅していく。
我々も部屋に戻るがなかなか寝付けない。
震度6の地震は、はじめての経験で度肝をぬかれた。

4月8日(金) 石巻市桃生町神取の神取揚水機場の導水管DIPφ150の修理を実施。

4月9日(土) 本日は一日中、待機であった。
作業を予定していた、北上系の送水管φ300の漏水箇所の現場状況が悪い(掘削深が深いため規模の大きな土留めが必要。湧水が多い)ため、石巻企業団から、地元業者に施工をお願いするとの連絡があった。
待機中、車両及び工具の点検・整備。

4月10日(日) 午前中は待機。車両・工具等の最終チェック。
午後から、次回復旧予定地区(雄勝町)の視察。

県道30号線を下り、新北上大橋手前を右折し釜谷を通り雄勝町の視察に行く。
釜谷に入ると田んぼが水没していて、自衛隊50人程が横1列になり棒で水中をついて遺体を搜索していた。
釜谷トンネルを抜け雄勝に入っていくと、ガレキの山でかろうじて4t車が通れる道路幅で木造家屋はなく、鉄筋コンクリート建物が点在していて電柱もすべて倒れていた。津波とはこれ程すさまじいのかと愕然とする。



▲ 4 / 5 石巻市大森字青ヶ崎土手外配水管修理



▲ 4 / 6 石巻市大森字青ヶ崎土手外給水管修理



▲ 4 / 7 北部地区管理事務所にて待機中。



▲ 4 / 8 石巻市桃生町神取 揚水機場導水管修理

雄勝町大浜迄行き被災された人々の冥福を祈りながら帰路につく。
夕方、第三次応急復旧隊が石巻に到着。引継を行なった。

4月11日(月) 宿舎を出発。バスで山形市へ向かい、山形空港から札幌への帰路につく。

第三次応急復旧隊の派遣 (4/10(日)～4/17(日))



第三次応急復旧隊 丸功協栄工業(株)

写真後列左から

- 大友 啓 太 さん
- 村上 朋 晃 さん
- 上杉 俊 弘 さん
- 丸山 周 一 さん
- 中島 康 之 さん
- 土屋 光 史 さん (隊長)

写真前列左から

- 丸山 哲 也 社長
- 丸山 有 弘 会長

4月8日(金) 16時00分から、水道局大会議室で第三次応急復旧隊の出発式。

4月10日(日) 8時に、新千歳空港から現地に向けて出発。山形空港からはバスで、仙台市を經由して石巻市へ移動。夕方に、石巻市の北部地区管理事務所に着。第二次応急復旧隊との引継。

4月11日(月) 本日は一日中、待機であった。石巻市北部地区管理事務所長より、昨日までさいたま市で漏水調査をしていた雄勝地区のパイプラインの現状確認(バルブの状況等)を札幌市と小樽市で行なうよう依頼されたため、明日から本格的な確認をする予定。現地は、TVのニュースで放映されていた様な、酷い状況であった。

4月12日(火) 札幌・小樽班は雄勝地区、旭川班は水浜地区のパイプラインの現状確認(バルブの有無や状況等、給水管の止水閉止作業)を行なう。なお、作業中に地震が発生し、作業場所が津波の影響があったところなので、避難場所を探した。

第3陣が石巻市に

丸功協栄工業社員らが水道管復旧

札幌市工事業協同組(社長)の社員6人が、市合(花松真一理事長)の水道職員らとともに復旧応援隊第3陣が10日、石巻市北部の被災地へ入り、丸功協栄工業(本社・中央区)に入社した。丸功協栄工業(本社・中央区)伊東知徳社長と交代し、(本社・東区、丸山哲也)「伊東知徳社長と交代し、明した。」

旭川市、小樽市の応急復旧隊と現地で合流。北海道チームの一員として、20日まで送水管の漏水箇所を捜す。8日に水道局庁舎で開かれた出発式では、北野靖尋水道事業管理者が「つらい作業をお願いしますが、体調管理には万全を期し、全員無事に帰ってほしい」と激励。隊長を務める岡島の伊藤誠水源地長は「一刻も早い復旧のため、札幌の皆さんを応援して行つていきます」と決意を表明した。

▲北海道建設新聞(平成23年4月2日付)



▲4/12 石巻市雄勝地区 管路調査(仕切弁)



▲ 4 / 12 石巻市雄勝地区 管路調査(消火栓)



▲ 4 / 12 石巻市雄勝地区 管路調査(メーター)

4月13日(水) 午前中は、札幌班は1班3人に分かれて雄勝地区の管路調査、小樽・旭川班は北部地区管理事務所周辺の漏水調査。

午後から、札幌班は待機となった。



▲ 4 / 13 石巻市雄勝地区 管路調査(仕切弁)



▲ 4 / 13 石巻市雄勝地区 管路調査(メーター)

4月14日(木) 応急復旧の日程について日水協から連絡があり、15日で終了することとなった。

午前中は、16日に札幌へ帰る段取りで準備を進め、荷物整理。

午後から、昨日実施した管路調査結果の取りまとめを行なった。

4月15日(金) 本日は、管路調査の資料整理と撤収に向けた荷物整理を行なう。復旧作業は以後、さいたま市が行なうとのことなので、夕方に引継。

4月16日(土) 宿舎を出発。仙台港へ向かう。

フェリーに乗船し、16時45分出航。翌11時に苫小牧港へ到着予定。

4月17日(日) 予定どおり苫小牧港に到着。水道局への到着は12時20分であった。

応急復旧活動に参加して

大富工業(株) 藤崎 吉弘 氏 (第一次応急復旧隊隊長)

今回の震災復旧は広範囲にわたる漏水復旧で、ひとつ直しても、違う場所で漏水しているし、地理も解らず、余震も続き、苦勞した点が多くあった。

しかし、被災者の方から『わざわざ札幌から来てくれてありがとう』と感謝され、大変な作業でしたが、すごく励みになったし行って良かったと思いました。

東亜工業(株) 伊東 仁司 氏 (第二次応急復旧隊隊長)

東日本大震災応急復旧活動に参加して残念だったのは、力の半分くらいしか発揮出来なかった事です。

漏水調査が進まないと、復旧班が動けず待機となるため漏水調査班と復旧班が合同で活動出来ればもっと応急復旧が進んだと思われる。

丸功協栄工業(株) 土屋 光史 氏 (第三次応急復旧隊隊長)

今回、東日本大震災応急復旧隊として出動したのですが、思う存分活動ができず残念でした。

再度出動の機会があれば、現地の復旧・復興のために出来る限りの対応をしたいと思います。